

# 哲 學 研 究

第六卷第十册  
第六十七號

大 正 十 年 十 月 一 日 發 行

大正五年四月六日第三種郵便物認可

大正十年九月二十八日印刷納本(毎月一画一日發行)



カントに於ける認識客觀性の問題

文學士 岡野留次郎

勞働の倫理

文學博士 藤井健治郎

救済の論理

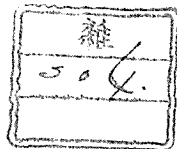
文學士 久松眞一

シェリングに於ける自由の哲學の發展

文學士 世良壽男

新著紹介、其他

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內  
京 都 哲 學 會



# 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得ルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會台ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	波多野精一
文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學博士	田邊元
文學士	務臺理作
文學士	植田壽藏
文學博士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
文學士	澤村專太郎
文學士	寶殿方夫

### 書記

# 會 告

來る十一月六日(日曜日)午後正一時半より本會秋期公開講演會  
を左の如く開催致候間御來聽被下度此段御案内申上候 敬具

一、會 場 京都帝國大學法學部第一教室

一、演 題

文化價值の體系 文學博士 米田庄太郎  
カントの平和觀に就て 文學博士 朝永三十郎

大正十年十月一日

京 都 哲 學 會

釋 七、華嚴家の管釋 八、總評  
其四、靈知不昧

一、荷澤の顯宗記 二、華嚴經の問明品 三、眞實の識知  
四、圭峰の禪源禪序

其五、華嚴と禪とを結附けたる經典

一、總說 二、楞伽經 三、圓覺經 四、首楞嚴經 五、金剛經及般若心經

其六、華嚴外傳

一、十地論の翻譯と光統律師 二、起信論と攝大乘論の傳譯  
其七、起信論疏述作者の曇延と曇遷

一、緒說 二、曇延の傳 三、曇遷の傳 四、概評

其八、世親辯論の舊譯と新譯

一、陳の眞諦譯 二、三譯對照 三、三譯概觀  
其九、靈辨及靈裕の華嚴經疏

一、後魏の靈辨 二、唐の靈裕 三、隋の靈裕 四、華嚴經論の著書 五、華嚴經文義記

其一〇、日本唯識家の眞如觀

一、三二樓實論と日本の唯識家 二、良遍の新主張 三、良遍の定性無性觀 四、良遍の眞如觀 五、道理眞理即眞如觀 六、後世の道理眞理觀 七、道理眞理說の由來 八、總評

其一一、遼金時代の佛教

一、遼金略史 二、中國の佛教と遼金の佛教 三、遼の佛教 四、金の佛教 五、遼金佛教概觀

其一二、遼金佛教の中心

一、中心は華嚴 二、志福法悟の釋論疏 三、鮮眞の華嚴玄談決擇 四、性惡說 五、發心即佛論 六、頓漸分別

其一二、遼時代の密教

一、唐末の密教遼に入る 二、遼主の奉佛 三、遼の密教 四、覺苑の演密鈔 五、道廢の圓通記 六、遼の密教と日本の密教

其一四、高麗の佛教

一、朝鮮史の時代別 二、三國新羅時代の佛教 三、高麗の佛教 四、高麗の天臺 五、祐世僧統義天 六、義天僧統の事業 七、李朝以後の佛教 以上

菊版總ケロス美本、四〇〇頁餘、價參圓。京都市油小路通御前上ル興教書院發行(原眞乘識)

### 寄贈書籍雜誌

眞宗の信仰と其の教義

齋藤 惟信著 東京 丙午出版府發行

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、日華公論、學校教育、教育、内外教育評論、教育學衛界、教育研究、教育時論、國際聯盟

## 前 號 目 次

眞善美の合一點……………	文學博士 西田幾多郎
教育學の論理……………	文學士 辻 幸三郎
佛敎史上に於ける日本天台戒律の意義……………	文學士 宮 城 信 雅
合衆國に於ける公民科敎授……………	文學士 伊 藤 猷 典
學界近況、新著紹介、其他……………	

會 告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居ノ節ハ直チニ其旨御報知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六叁番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部 內 京都哲學會  
 振替口座大阪參〇六六叁番

註 文 規 定

◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は内  
 外出版株式會社へ御申込下され度候  
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎振替貯金にて御送金は(振替大阪三二九五番)内外出版株式會社宛に願上候  
 ◎前金切れの場合は(前金切)の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	數	定	價	一	郵	稅
一	冊	金	四	拾	錢	壹
六	冊	金	貳	圓	四	拾
十二	冊	金	四	圓	八	拾

前金) 金貳圓四拾錢 不 申 受  
 前金) 金四圓八拾錢 不 申 受

廣告料 一頁 金貳拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十年九月二十八日印刷納本  
 大正十年十月一日發行  
 第六十七號 第六卷 第十册

不許複製  
 禁轉載

編輯者 京都帝國大學文學部內  
 右代表者 京都哲學會

發行者 寶嚴方夫  
 印刷所 須磨勘兵衛

發行所 京都市下京區西洞院七條下  
 印刷所 須磨勘兵衛  
 內外出版株式會社  
 振替口座大阪三二九五番

發 行 所

發 賣 元

京都市下京區西洞院通七條下  
 東京市京橋區加賀町十番地  
 振替口座大阪三二九五番

賣 捌 所

(東京) 東京堂、東海堂、北隆館、  
 上田屋、(大阪) 盛文館、三文社  
 (神戸) 寶文館、川瀨書店  
 (京都) 共盛社

同志社  
大學 教授 恒藤 恭著

(四百餘頁)

# 批判的法律哲學の研究

(十月中旬發行)

カントによつて確立された批判的精神を法律哲學の方面に繼承し發展しやうとする見地に立つ學者の中の代表的な人々が、法律哲學の主要問題——(例へば、法律の本質の問題、法律の理想の問題、法律の最高法則の問題、法律學の研究方法の問題など)——について抱いてゐる思想なり見解なりを、能ふかぎり忠實に且つ正確に理解しやうと努めた試みの結果の一部が、この書にをさめた諸論稿である。……(著者の序文より)

大正五年四月六日第三種郵便物認可  
大正十年九月二十八日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲學研究 第六十七號 定價金四拾錢(郵税金壹錢)

發行所 東京市下區 外出版株式會社 東京市下區 西院七條

播磨座內 版  
三五九二番